

# 一人ひとりを大切にする保育 —0歳児クラスの担当制による乳児保育の観点から—

伊藤 美保子<sup>\*1</sup>・宗高 弘子<sup>\*2</sup>・西 隆太郎<sup>\*1</sup>

Caring for Each and Every Child: Early Childhood Care in the Permanent Teacher Assignment System in an Infant Class

Mihoko ITO, Hiroko MUNETAKA and Ryutarō NISHI

It is widely recognized that the permanent teacher assignment system is an effective method in early childhood care. Existing researches have been mainly focused on the general principle of the system, but the practical intricacies have rarely been investigated, though they are quite important in childcare. We observed the practice of the system in an infant class throughout the year and depicted the specifics of the design of the system, intaking families, the way of nursing, play, and the growth of the class as a community.

Key words : the permanent teacher assignment system, early childhood care, childcare practice

## 1. 問題・目的

一人ひとりの子どもの発達過程を踏まえ、子どもの欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的にかかわることが保育所保育指針にも謳われている<sup>1)</sup>。とりわけ乳児期においてはそれぞれの子どもの発達に応じてきめ細やかにかかわることが必要になる。保育所保育指針解説書にも、乳児保育においてゆるやかな形での担当制の意義が示されているように<sup>2)</sup>、一人ひとり、生活リズムもさまざまな乳児期の子ども達に丁寧にかかわる上で、担当制の保育が注目されているところである。

「担当制の保育」と言われるものも、そ

の内実はさまざまに異なっている。子ども達や家庭の状況、保育園の環境や保育者のありようによって、実際の保育は変わってくるのである。阿部は二つの園における担当制のあり方を観察・比較し、グループの作り方、各グループの食事の際の準備、グループの動線など、生活の基本的な部分でもそれぞれに違いがあることを示している<sup>3)</sup>。現場からの実践報告<sup>4) 5)</sup>では、担当保育士による「一人ひとりの子どもの実態把握」が強調され、子どもの情緒的な安定をはかるための人間関係のあり方が取り上げられている一方で、こうしたかかわりを支える生活環境についてはほとんど言及がなされていない。一方で、ハンガリーの保

---

キーワード：担当制、乳児保育、保育実践

※1 本学人間生活学部児童学科

※2 元就実大学

育を取り入れた保育実践では、保育士とのかわり深まることももちろんのことながら、食事、排泄、手洗いなどの生活の基本的な面で大きな変化があったことが報告されており<sup>6)</sup>、担当制を実践する上では、保育の中で生活をどう具体的に作っていくかが問題になることが分かる。

担当制については今井・榊原による概説<sup>7)</sup>や、北ら<sup>8)</sup>にも言及があり、各年齢における生活リズムやグループ設定などについて、主には一般的な考え方が示されているものの、先に述べたように、保育実践においてはそれをどう具体的に実現していくかが問われることになるであろう。ヘルミナ<sup>9)</sup>も乳児保育を概説する中で担当制に触れているが、具体的な記述を行ったものとしては、コダーイ芸術教育研究所によるものが数少ない貢献と考えられる<sup>10)</sup>。ただ、このような考え方で実践を行う際にも、先に述べたように子ども達や各園の状況はさまざまであることから、それぞれの園なりの工夫がなされなくてはならない。保育実践においては、基本的な保育観ももちろんのことながら、それが一つひとつの具体的な実践にどう生かされているかが重要になる。そう考えると、担当制の「あるべき姿」を論じるだけでなく、その具体的・個性的な実現のありようについて、詳細に見ていくことは意義深いことと言えるだろう。

本研究では、育児担当制を取り入れているA保育園に協力をいただき、観察研究を行うことで、一人ひとりを大切にすることを乳児保育のあり方について考察する。その際、具体的な保育のあり方や生活の実態を理解するために、現場で撮影した写真とともに、それぞれの場面を示すこととする。

## 2. 方 法

X年4月～翌年3月の1年間、A保育園の0歳児クラスで、週1回・午前中の約1

時間、ビデオ撮影を行い、観察メモを取った。

事例・映像を研究に用いることについては、園を通して保護者からの了解を得ている。以下に、一人ひとりを大切にすることのかわりがよく見てとれる場面やその背景について、写真や資料とともに挙げていく。

## 3. 結果・考察

観察をもとに、A保育園における担当制の実際について述べる。全体の枠組みとなる日課、具体的な生活の場面・遊びの場面、年間を通して見ることでできた入園時から進級時への流れについて、写真や資料を交えて記述する。

### (1) 一人ひとりの生活リズム

0歳児クラスでは、産休明け・育児休業明けなどを機に、年間を通じて入園児がある。保育所保育指針解説書に言われるように、一人ひとり異なる発達に応じた保育を行うこと、同時に子ども達が保育園での生活に心地よく馴染んでいくことが重要となる。それぞれに発達も生活リズムも異なっていることから、A保育園では入園ごとに子ども達に応じた個人日課表を作成している(図1・図2)。

図1は7月時点での日課表である。クラス全員の子ども達について、睡眠、目覚め、食事、排泄など、家庭から続く一日の生活リズムを把握し、それぞれの子どもについて担当保育士・副担当保育士を示したものである。

日課表の作成にあたっては、次項にも示す入園児のかかわりにおいて、保護者に一週間の生活状況(目覚め、食事、遊び、お昼寝など)についての表を記入してもらい、これを取り入れている。

図2は11月時点での日課表である。多くの入園児があり、クラスが大きくなっていることが分かる。それに応じて保育士も増えている。このように、日課表は固定したのではなく、子ども達の入園ごとに、

また状況が変化するたびに、随時見直されていく。このようにして、家庭から保育園への生活の連続性が大切にされている。

また、この日課表に基づいて保育士の動きも表にしている。この表には、それぞれの保育士が、一日の保育の中で担当する子どもとどのようにかかわるか、大まかな流

れが示されている。

図3は、図1に対応する7月時点での保育士の動きを示したものである。もちろん図2の11月時点では子どもも保育士も増え、この表の内容もそれに応じて増やされることになるが、ここでは一例として図3のみを挙げる。

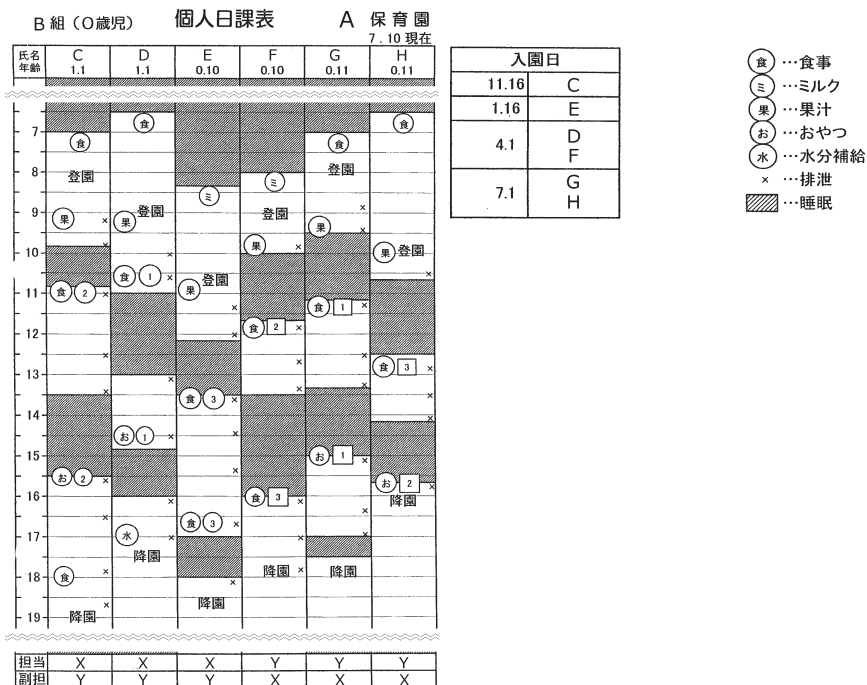


図1 日課表 (7月)

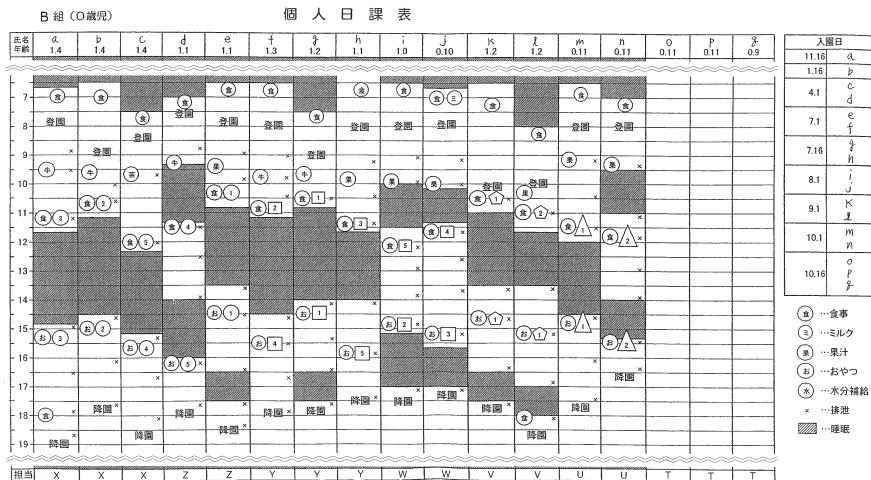


図2 日課表 (11月)

大人の動き

B組(0歳児)

	Y	X	Z(補助)
7			
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出勤</li> <li>○受け入れ準備</li> <li>○室内で遊びを見守る</li> </ul>		
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( G )</li> <li>○連絡簿に目を通す</li> <li>○副担当児の排泄、果汁を飲ませる ( C )</li> <li>○副担当児に果汁を飲ませる ( D )</li> <li>○担当児の排泄、果汁、睡眠 ( G )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出勤</li> <li>○室内で遊びを見守る</li> <li>○担当児の排泄、睡眠に誘う ( C )</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児の排泄、果汁、睡眠 ( F )</li> <li>○担当児に果汁を飲ませる ( H )</li> <li>○食事準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児の排泄、戸外に出る ( D )</li> <li>○担当児を入室させる ( D )</li> <li>○排泄・食事 ( D )</li> <li>○担当児に果汁を飲ませる ( E )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出勤</li> <li>○室内で遊びを見守る</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( H )</li> <li>○排泄・食事 ( G )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○排泄・食事 ( C )</li> <li>○担当児を排泄に誘う ( E )</li> </ul>	
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○排泄・食事 ( F )</li> <li>○排泄・食事 ( H )</li> <li>○睡眠に誘う ( H )</li> <li>○担当児を排泄に誘う ( G )</li> <li>○担当児を排泄に誘う ( F )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コートを脱ぐ ( F )</li> <li>○担当児の排泄、睡眠に誘う ( E )</li> <li>○担当児を排泄に誘う ( C )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○退室</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い</li> <li>○担当児の排泄、睡眠に誘う ( G )</li> <li>○担当児の排泄、睡眠に誘う ( F )</li> <li>○担当児を排泄に誘う ( H )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( D )</li> <li>○担当児の排泄、睡眠に誘う ( C )</li> <li>○排泄・食事 ( E )</li> </ul>	
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児の排泄、睡眠に誘う ( H )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( E )</li> <li>○排泄・おやつ ( D )</li> <li>○担当児を睡眠に誘う ( D )</li> </ul>	
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○排泄・おやつ ( G )</li> <li>○排泄・おやつ ( H )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( E )</li> <li>○排泄・おやつ ( C )</li> </ul>	
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部屋の掃除</li> <li>○排泄・食事 ( F )</li> <li>○担当児を排泄に誘う ( G )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( D )</li> </ul>	
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>退 勤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当児を排泄に誘う ( C )</li> <li>○排泄・食事 ( E ) 睡眠に誘う</li> <li>○副担当児の排泄、睡眠に誘う ( G )</li> <li>○残っている子を排泄に誘う</li> </ul>	

← 交代で食事・休憩 →

保育経験年数(0歳児保育経験年数)  
 Y … 10.3ヵ年(7.3ヵ年)  
 X … 0.3ヵ年(0.3ヵ年)

図3 保育士の動き

もちろん、これは時刻通り機械的に実施されるものではなくて、状況に応じて柔軟に対応していくための大まかな枠組みとして用意されている。子ども達の発達的变化や、その日の状況、保育士の勤務実態等によって、実際の対応は変わってくる。担当ばかりでなく副担当がかかわることができるようにされているし、とくに遊びの場面などでは担当の子どもだけしか見ないということはありません。保育士もどの子どもともかかわっているが、後に示すように担当保育士との間で安定した生活の流れを経験できるようにすることで、子どもとの信頼関係を築くようにしている。

こうした保育の流れについて、日々話し合い、日課表を作成することが、保育士が連携し、共通理解を持つことにも役立っている。

## (2) 入園時のかかわり



写真1 入園時のかかわり(慣らし保育)

A 保育園のある市では、正式な入園日の約2週間前から保育園に入ることができるようになってきている。この期間に慣らし保育を行っているが、最初の1週間では保護者と一緒に園で過ごす時間を1時間ずつ増やしていき、あとの1週間では、保護者がいなくても園で過ごす時間を少しずつ増やしていく。といっても、家庭の状況や、そ

のときまた体調がすぐれなかった日があったりといったことから、それが機械的に進められるわけではなく、個々多様な形にはなっていくのはもちろんのことだが、全体としてこのような形を取ることで、スムーズな生活の移行を図っている。こうした移行のあり方も、園によって、家庭の状況に応じて、さまざまな工夫がなされるであろう。

写真1は、まだクラスの人数も多くはない8月ごろ、保育士が子ども達ともかかわりながら、保護者の話を聴いている場面である。A 保育園では、家庭との連携を密にしながら一人ひとりの成育歴に留意し、子ども達も保護者も、保育園生活に馴染んでいけるように配慮している。新入園時には、親子を迎え、話を聞いたり、園での生活をともに体験してもらいながら、情報を得るばかりでなく、信頼関係を築いていく。A 保育園では、親子での食事場面を見せてもらうなどして、その子の生活リズムや、その家庭での生活の仕方、子育てのあり方を、実際に即して理解し、担当制での保育に活かしている。どの家庭もそれぞれに違っているわけだから、それぞれの家庭での生活を知った上で、保育園での子どもの生活につなげていくことは重要だと言えるだろう。

親子で過ごすことにより、子どもも新しい環境に慣れやすくなる。また、保護者の側もこの保育園がどんな場所で、どんな保育をしているのか、どんな人が担当するのか、実感を持って知ることができる。保育士も、保護者が子どもに食べさせたり、子どもが遊んでいる様子を見たり、午睡のときにどんなふう寝かせているか、その実際を見ることができる。保育士と保護者が、自然な形で話をしながら、育児も一緒にしながら、お互いにそのやり方を知っていく。



### (3) 生活の場面

次に、おむつ交換から食事、午睡へと続く、子どもの生活の流れと保育士のかかわりを写真で示す。



写真2 おむつ交換



写真3 手洗い



写真4 食事



写真5 午睡の前

生活については、特定の担当保育士が一人ひとりの発達や健康状態に応じて、細やかに対応している。食事、排泄、睡眠など、子ども達全員に一齐にさせるのではなく、それぞれの子ども達に応じた生活が、全体としての調和の中で流れるように進んでいく。

写真2～5には、排泄・おむつ交換の後の手洗い、食事から午睡までが、担当の保育士との関係の中で、落ち着いて進んでいく、まさに「流れる日課」の様子を見てとることができる。また、それが単なる「生活習慣」としてこなされていくのではなく、微笑とともに見つめ合ったり、子どもが自分でやってみようという思いを大切にしたり、和やかな時間をともにしたり、やがては健やかな眠りにつくまでを温かく見守る、保育士の姿勢やかかわりを見ることができる。



写真6 クラス全体の様子

写真6はクラス全体の様子を写したものである。ここからは、一人ひとりの生活リズムに沿って、さまざまなことが進んでいく様子を見てとることができる。食事、睡眠、排泄といったことが、それぞれにおこなわれながら、なお全体としての穏やかな調和が感じられるところに、担当制による0歳児クラスの特徴が表れている。食事一つをとっても、保育士の膝の上で食べさせてもらっている子もいれば、自分で座れるようになっていてテーブルについている子もい

て、それぞれの発達に合わせた保育がなされている。子ども達みんなが一斉に食べたり、眠ったり、排泄の順番を待ったりするのではない。0歳児の行動を一律に揃えておけば混乱がなくなるかと言えばそうではなくて、むしろ逆に、一人ひとりそれぞれに応じた保育がなされることで、かえってクラス全体の調和が生まれるのである。

#### (4) 遊びの場面



写真7 その子ども、みんなとも

遊びについては、担当の子どもだけというわけではなく、担当保育士を含め他の保育士と連携して、状況に即して対応している。保育の中では、先に示した写真6のように、保育士が一对一に近い形で子ども達にかかわっている時間がある。とくに排泄などについては、担当制に限らずどんな保育形態であれ、0歳児とは一対一でかかわることになる。そのとき他の子ども達は、ただ待たされているわけではなくて、遊びを楽しんでいる。保育の一日の中で自由遊びの時間が重要な意義を持つことが指摘されているが<sup>11)</sup>、自由な遊びはただ放っておかれるようなものではなくて、遊びの中でこそ、かかわり、見守る保育士のあり方が重要になってくる。

写真7では、保育士がBちゃんと向かい合ってわらべうたで遊んでいるとき、Cちゃんも保育士の膝に抱っこされて安らぎなが

ら、それを見て聴いて楽しんでいる。保育士は同時に、押し箱に入って遊んでいるDくんの様子も気かけ、微笑み合っている。

一人ひとりを大切に作る保育は、一対一の保育とイコールではない。また、一対一でなければならないとも限らない。実際の保育場面では、目の前の子どもとのかかわりを大事にすることが、同時に他の子どもを大事にすることともつながった形で行われている。そうしたかかわりの中で、子ども達どうしのつながりも深まっていく。こうしたことがなされるためには、単に担当制による生活の流れが定められるというだけでなく、一人ひとりの保育士が、子ども達の様子をよく見てとり、一つひとつの遊びや表情や表現に、応えていく力が必要になるであろう。

担当保育士に話を聞いたところでは、「遊びに気持ちが向かうように、その子の気持ちをどう引き出していかを考えるようにしている」「アイコンタクトやスキンシップ、表情や目の動きなど、言葉だけでなく伝わるものを大事にしている」とのことだった。担当制によって特定の保育士がかかわるにしても、その特定の保育士が、このように子ども達の繊細な気持ちや表現を受け止めながらかかわっていくことが、実際に信頼関係を築いていくために求められるであろう。



写真8 手作りおもちゃを通して

A 保育園では、子ども達が遊びの世界を広げていけるよう、環境がさまざまに工夫され、整えられている。

写真8はその一例である。手作りおもちゃの鏡を通して、子どもと保育士が笑顔で見つめ合う。子どもはもっとやってみたいという気持ちで、全身を使って遊びの中に入り込んでいく。遊具はただ、ものとして工夫されて置かれているだけではない。それに触れて楽しむ子どもによって、そしてそれに応える保育士によって、生かされるのである（この場面については、保育における養護と教育の一体性を示す例として、すでに論じてきた<sup>12)</sup>）。



写真9 園庭での遊び

写真9は、冬になり、一人で立つのも上手になってきた子ども達が、園庭の立ち砂場で遊んでいるところである。0歳児の遊びは、室内の環境ばかりでなく、園庭や外の世界にも広がっていく。園庭へと続くベランダからは、大きな子たちの遊ぶ様子が自然と目に入るようになっていく。0歳児たちも抱っこで保育士と一緒に外を見たりすることから始まって、外への散歩や、園庭での遊びも日々の計画に取り入れられている。

#### (5) 年間を通して

0歳児クラスは、4月当初の人数が少なくても、随時途中入園が見込まれる。4月

のクラス編成がそのまま1年続くわけではない。年度途中にも子ども達が入園し、それとともに保育士も加わって、1年をかけて大きくなっていく。

毎月のように子ども達が入園してくることから、連携が大変ですねと問いかけると、担当保育士は「どんな子が入ってくるのか楽しみです」と答えていた。もちろん、保育士どうしの連携が重要であり、その都度保育を振り返りながら、つねに話し合い、連携を取り合っているとのことだった。

新入園児を楽しみに迎える保育士の笑顔からは、新しい子ども達との出会いや、新しく起こってくるさまざまな変化にも、希望を持って対応することのできるA保育園の柔軟性と、人間的な温かさを感じさせられた。実際に、1年間を通してクラスが大きくなっていく様子を観察していても、子ども達に安定感があった。0歳児クラスが新入園児を迎えるとき、初めて保護者と離れて過ごす生活の変化や、人見知りの始まりなどもあって、入園する子にとってもクラスにとっても、混乱が起きたり、それまで築いてきた安定が後戻りするといったことが起きかねないにも思われる。しかし、これまで観察してきたA保育園ではそういう様子ではなく、むしろ新しくやってきた親子を、クラスの子も達も0歳児ながらに親しみを持って近づいたり、受け入れている場面が見られた。このようなクラスの安定は、安定した自然な生活リズムで、担当保育士との情緒的な絆のもとで支えられていることから可能になったのだと考えられる。

年度末、3月の後半になると、0歳児クラスの子も達と担当保育士はともに、次のクラスに入って生活を楽しむ時間を持つ。先に家庭から園への生活に向けての「慣らし保育」の場面を取り上げたが、次のクラスで少しずつ暮らしてみることは、クラ



スからクラスへの一種の「慣らし保育」としての意義を持っていると言えるだろう。進級の際、子ども達は大きくなった喜びとともに、環境の変化によるさまざまな揺れも体験する<sup>13)</sup>。そのような揺れも起こってくる時期を、急激な変化や過去からの切断としてではなく、担当保育士とともに自然な移行の時期としていくことは、子どもの育ちを支えることにつながるであろう。

#### 4. 結 語

0歳児クラスにおける担当制について、年間を通しての観察からその実際の側面を明らかにしてきた。その中でも述べてきたように、担当制をしていることそのものや、その形式ばかりでなく、担当制のもとで保育士がどう子ども達の表現を受け止め、どうかかわっているかが重要だと考えられる。担当制が本来意味するものは、保育の方法や仕組みというよりも、保育士の心がその子の心とつながること、その子の心とともにあるということではないだろうか。これまで明らかにしてきた0歳児クラスにおける担当制の実際も、単に保育をスムーズにする方法や工夫としてではなく、子ども達一人ひとりが本当に大切にされていると感じられる保育を実現していくものと捉えられるべきであろう。

#### 文 献

- 1) 厚生労働省：保育所保育指針，フレーベル館，2008
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針解説書，フレーベル館，2008
- 3) 阿部和子：乳児の「生活の質」の検討—担当制の視点から—，保育の実践と研究，11(4)，49-71 (2007)。
- 4) 森本代志子・刀祢篤子：一人ひとりが安心して過ごせる環境づくり—担当制を通して—，全国保育士会研究紀要，13，12-21 (2003)。
- 5) 大沢佳代：大人とのかかわりを大切に—0歳児のグループ担当制—，季刊保育問題研究，145，68-72 (1994)。
- 6) サライ美奈：ハンガリー たっぷりあそび就学を見通す保育—一人ひとりをたいせつにする具体的な保育，かもがわ出版，2014
- 7) 榊原洋一・今井和子：今求められる質の高い乳児保育の実践と子育て支援，ミネルヴァ書房，2006
- 8) 北郁子・西ノ内多恵・米山千恵編：0歳児クラスの保育実践，中央法規出版，1993
- 9) セチェイ・ヘルミナ（羽仁協子・サライ美奈訳）：0～3歳児の保育・最初の3年間—保母と母親とのよりよいコミュニケーションのために，明治図書，1999
- 10) コダーイ芸術教育研究所：乳児保育の実際—子どもの人格と向きあって—，明治図書，2006
- 11) 津守真：子ども学のはじまり，フレーベル館，1979
- 12) 西隆太郎・伊藤美保子：養護と教育の一体性—保育現場における実践知の観点から—，保育の実践と研究，18(2)，18-28 (2013)。
- 13) 伊藤美保子・西隆太郎：保育の中の子ども達，大学教育出版，2012

#### 謝 辞

いつも温かく迎えてくださった，昭和保育園の園長先生を始め，先生方と子ども達に感謝いたします。